

U12カテゴリー チーム運営について

FBA福島県バスケットボール協会 U12カテゴリー部会



自己紹介

名前:菅野 孝三 (すげの こうぞう)

出身地:福島県二本松市出身 (旧東和町)

チーム:県中地区 郡山西ファルコンズ(女子)

指導歴:27年

日本バスケットボール協会 東北ブロック幹事

東北バスケットボール協会 理事 U12部会長

福島県バスケットボール協会 理事 U12部会長

はじめに

- チーム運営のための参考となるよう、ガイドラインを作成しました。
- わからないこと、困ったことがあれば、まずは福島県バスケットボール協会に相談をしてください。
- バスケットボールが大好きな子どもたちのために、大人や地域が協力体制を整えて、チームを運営し、子どもたちを育てていってください。

本日の項目

1 登録

2 移籍

3 チーム運営

4 保護者

5 会計

6 インテグリティ

7 子ども理解と指導 親の支援

8 望ましい距離と練習時間

9 気持ちのよいチーム作り

1. 登 録

この項目は、JBA「U12カテゴリー登録・移籍運用細則」に準じ、
守っていただきたい内容となります。



(1) チーム登録

① チーム責任者

- 1 登録年度の4月1日現在で年齢が**18歳以上**であること。
- 2 チームを代表して対外的な**窓口**となり、参加に係る**手続き**等ができること。
- 3 チームが競技会等に参加する場合に帯同し、チームの**最終責任者として活動**できること。
- 4 チームのコーチや審判を**兼ねる**ことができる。
- 5 **保護者の代表等が務めてもよい。**

(1) チーム登録

② コーチ

- 1 登録年度の4月1日現在で年齢が18歳以上であること。
ただし、高校生を除く。
- 2 JBA公認コーチライセンスの「E級」以上を保有していること。
- 3 チームが大会等に参加する場合に帯同し、コーチとして活動できること。
- 4 チーム責任者や審判を兼ねることができる。
- 5 複数のチームでコーチとして登録することは可能だが、同じ大会で複数のチームの指揮を執ることはできない。
- 6 **一つのチームで複数のコーチが協力して指導することができる体制づくりを推奨する。**

(1) チーム登録

③ 審判

- 1 登録年度の4月1日現在で年齢が12歳以上であること。
ただし小学生を除く。
- 2 JBA公認審判ライセンス。「E級」以上を保有していること。
- 3 チームが大会等に参加する場合に帯同し、大会の審判として活動できること。
- 4 チーム責任者やコーチを兼ねることができる。
- 5 複数のチームで審判として登録することは可能だが、大会日程の重複などにより、活動に支障ないように配慮すること。
- 6 U18審判を積極的に活用することを推奨する。

(2) 競技者登録

① 年齢

- 1 原則として当該年度の4月1日現在、年齢が13歳未満の選手とする。
- 2 過年齢の選手であっても、小学校在学中の児童については登録を認めるが、当該選手の競技会等への参加については、大会要項の定めに従う。
- 3 当該年度の4月1日現在、10歳未満の選手のJBA競技者登録料は無料とする。ただし、都道府県協会登録料の有無および金額については、都道府県協会の定めによる。

(2) 競技者登録

② 条件

1 競技者の主たる居住地から当該チームの主たる活動場所まで安全に無理なく集合して活動し、活動後は安全に無理なく帰宅できる範囲のチームであること。

※小学生に必要な生活習慣や学習時間、睡眠時間などを考慮し、遅くとも午後8時までには帰宅できることが望ましい。

2 競技者の移動中の安全の確保について、当該競技者の保護者をもって行える環境であること。

(2) 競技者登録

③ 新規加入の手続き

- 1 チーム責任者が、「**競技者一括登録**」によって行うことができる。
- 2 初めて競技者登録する場合、競技者登録番号は自動的に採番される。
- 3 以前に別のチームで競技者登録をしていた選手が加入する場合は、**以前使用していた競技者登録番号で登録する。**
- 4 手続きの詳細は、TeamJBAを参照のこと。

(2) 競技者登録

④ 継続加入の手続き

- 1 チーム責任者が、「競技者一括登録」によって行うことができる。
- 2 競技者一括登録を行う際は「代理登録委任状(U12)」により、選手に継続登録の意思があることを確認してから手続きを進める。
- 3 手続きの詳細は、TeamJBAを参照のこと。

登録を推進 = チーム存続を助ける

U12の喫緊の課題

○ プレーヤーの減少、チームの減少への対応

- ・プレーヤーが10名（8名）集まらない。
- ・試合が成立しない。

⇒ 合同チームとして試合ができる環境を保障します。

指導者＝保護者

U12特有

- 1 保護者が指導者として子供たちにバスケットボールを教える。
- 2 子供の卒業と同じくチームを抜けてしまう。
- 3 他からみてえこひいきしているとみられる。

合同チーム

プレーヤーのモチベーション確保

県内チームの存続

近くでバスケットボールを楽しめる環境の担保

条件 （子供のための合同であり、指導者のためでない。強化目的でない）

- ・ 合同練習が可能な距離。 子供、保護者に大きな負担がかからない。
- ・ 合同で試合に参加する場合、メインコーチが決まっていること。
- ・ 両チームの、チーム運営を互いに尊重し合い、齟齬がないこと。

2. 移 籍

この項目は、JBA「U12カテゴリー登録・移籍運用細則」に準じ、
守っていただきたい内容となります。



(1) 移籍の考え方

① JBA基本規定における移籍の考え方(抜粋)

- 1 移籍は基本的に自由である。
- 2 移籍申請者は希望する**競技者**である。
- 3 移籍元チームは移籍を承諾しなければならない。

② U12カテゴリーにおける移籍の考え方

- 1 2019年度より、競技環境が得られずに困っている選手を救済するため、「特別な事情」がある場合は移籍を認める。
- 2 上記の趣旨を踏まえ、指導者や保護者などの大人が意識を改め、育成に主眼を置いた運用をする。

(1) 移籍の考え方

③ 移籍の運用

- 1 「特別な事情」とは、「転居」と「人間関係等のトラブル」とする。
- 2 「人間関係のトラブル」とは、選手、指導者、保護者のそれぞれの間で起こったことを含む。
- 3 引き続き、強化を目的とした移籍を認めない。
- 4 移籍回数の制限は行わないが、選手の発達段階を踏まえ、U12カテゴリーでは同じ環境で継続的に育成されることが望ましい。

(2) 移籍の手続き

① 手続き方法

- 1 JBAホームページより「移籍申請書」をダウンロードし全てに記入。
理由は必ず記載・選択。
- 2 「登録システム(TeamJBA)」による移籍手続きを行う。
- 3 JBA移籍承認後両チームシステム上で手続きを行う。

※書面申請は現在行っていません。

(3) JBAの検討課題

○理由をこじつけて、5・6年生で競技レベルの高い選手を集め上位大会(全国・ブロック大会)を目指そうとするチームがある。
表向きは、偶然移籍したように見える・・・

・現段階では、移籍回数に制限がない。(悪用を考えての移籍ではないと考えているため)

検討課題

⇒**または** 各大会出場条件に組み込む

(例8月末までに登録・移籍を完了していること)

(4)福島県U12部会の考え方

①移籍否認項目例

- 1 「人数が減って試合が出来ない」。→交流試合・合同チーム
※チームが消滅の場合は移籍可
- 2 指導力の有るコーチに学びたい。→強化？
- 3 遠方への移籍を希望する。→強化？
※近隣チームへ移籍→OK
- 4 申請書類に虚偽の記載。

②移籍申請内容の調査

- 1 移籍が妥当か関係者へヒアリングを実施

③移籍に関する取り扱い

- 1 **令和6年4月1日よりの移籍申請に対し適応する。**
- 2 **移籍申請＝移籍承認ではない。**
- 3 **移籍者の大会参加は、移籍承認・JBA登録完了後とする。**
- 4 **移籍申請の可否はU12カテゴリー移籍運用細則並びにU12カテゴリー移籍手続きガイドに沿って判断する**

※チーム関係者へ

移籍申請書類への捺印は慎重にお願いします。

(申請が否認され子供の行き場がなくなる場合が有る)

3. チーム運営



チームの規約

ありますか？

いつ作成しましたか？

時代に合わせて改訂されていますか？

(1)規模

①選手

- 1 各選手に**均等な活動の機会**が与えられるよう、場や時間を配慮する。
- 2 選手の負担が重くならないよう、**活動の質と量を工夫する。**
- 3 登録競技者が8人に満たないチームでは、近隣のチームと合同チームを編成するなど工夫し、活動できる環境づくりを行う。

②スタッフ

- 1 きめ細かな指導ができるよう、**複数の指導者を確保する工夫**をすることが望ましい。
- 2 低学年の選手に対しては、指導者の指示の下、保護者が指導を補助するなど工夫する。

(2) 体育館利用

① 配慮事項

- 1 練習はある程度固定した日時や場所で行うようにし、移動による負担を避けるようにする。**
- 2 選手の発達段階や人数に応じて、開始・終了時刻や練習時間の設定を行う。**
- 3 小学校の体育館を利用する際は、学校側の理解を得られるよう、使い方や他競技への配慮などを行う。**

4. 保護者



あなたのチームの 責任者は・・・

指導者？

保護者代表者？

答えられますか



(0)チーム責任者の明確化

- U12カテゴリーは「クラブ」に属する = 責任どころが不明確
- 指導者 ⇔ 保護者、保護者間のトラブルが多い
- 暴言暴力が多い
 - 指導者だけの問題ではない
 - 勝ちを助長する保護者も多い

(1)役割

- 1 選手が自主的に活動できる手助け(サポート)を行う。
- 2 大会や練習試合で必要となるT.Oの指導を行う。
- 3 選手に前向きな言葉かけを行い、応援する。
- 4 活動に対する経済的な負担を行う。
- 5 練習や試合、大会の際に選手の指導を助ける。
- 6 家庭での生活を調えることを大切にし、特に食事、睡眠の管理を行う。
- 7 選手のサポートに必要なことや不要なことを、指導者とすり合わせを行う。

(2)保護者会

①組織

- 1 協力して子どもたちの活動を応援できる体制を整える。
- 2 会長，副会長，学年ごとの代表，会計など，その他実態に応じて役員を置き，役割分担をして運営にあたる。

(2)保護者会

②会議

- 1 指導方針の伝達や会計報告などが定期的に行われること。
- 2 チームや指導者に対する保護者の要望を聞くなど、互いの意思の疎通を図り、よりよい活動環境を整える。
- 3 時機や回数は、チームの実態に合わせて工夫して実施する。
 - ・4～5月等年度はじめ、登録完了後や新体制がスタートする時
 - ・2～3月等年度の終わり、会計報告や次年度体制について話し合う時
 - ・各大会の前後など、連携を図ることが必要な時 など

(3)意思の疎通

- 1 保護者は、チーム責任者や指導者と連携を図り、協働してチーム運営にあたる。**
- 2 指導者は保護者の、保護者は指導者の言葉に耳を傾け、互いが理解を深め、子どもたちのよりよい活動につなげていく。**

■理想的なチーム作りと運営方法

理想的なチームとは、各種トラブルを回避し、子どものよりよい成長のために活動するチームです。理想的なチーム運営とは、規約や活動方針を時代に即し、見直し、指導者と保護者が十分にコミュニケーションをとりながら諸問題を未然に防止することに加え、子どものよりよい成長のために協働することです。チーム作り・運営を行うために、チーム規約に則り、様々な事項について共通理解を図りながら、共通行動を必要とします。細かな確認事項や協議事項に対し、合意形成を図りながら運営することが最も重要です。そのために、チーム内で「責任者（代表者）」を明らかにし、子どもの健全育成に向けた視点でチーム運営をすることが重要です。また、チーム内の「責任者（代表者）」とは、チームの理念や目標、育成マインドに基づく指導のあり方、保護者の関わり方などチームの運営全般において、意思決定に向けた話し合いなどを調整し、意思統一をできる者です。なお、TeamJBA（会員登録管理システム）におけるチーム責任者は登録担当者の意味合いで使われており、このチーム運営基本指針で示す「責任者（代表者）」とは意味合いが異なります。

5. 会 計



(1)管理方法 規約を基に

①金額, 集め方

- 1 集金額は, チーム運営に必要な金額を保護者会で検討し, 決定する。**
- 2 集める際は, 集金袋や銀行振込などの方法で, 必ず記録が残るようにする。**
- 3 金額や方法を決定する際は, 各家庭の事情に十分配慮することが重要である。**

(1) 管理方法 規約を基に

② 会計報告, 年度ごとの会計

- 1 少なくとも年度に1回は会計報告を行い, 複数の目で監査等が行われるようにする。
- 2 年度ごとに選手や保護者が入れ替わるので, 会計は年度ごとに処理するようにする。(トラブルの回避)

③ 会計担当者

- 1 担当者は出納の管理を行い, 予算を執行する者とは分けておく。
- 2 出納の管理は必ず複数で行い, ミスを防ぐ工夫をする。

(2) 使途

① 使途の決定, 判断

- 1 会費等の使途は, 事前に保護者会で定める。
- 2 定めのない支出の可否は必ず協議して決定し, 透明性を確保する。

② チームの経費の範囲

- 1 チームとして負担する経費の内容は, 事前に規定等に定めておく。
- 2 チームで負担するものと, 個人で負担するものを明らかにしておく。

6. インテグリティ



(1) インテグリティとは

① JABからのメッセージ

「クリーンザバスケット, クリーン・ザ・ゲーム」

～暴力暴言根絶～

- JBAは、**インテグリティ(誠実さ, 真摯さ, 高潔さ)の精神**に則り、プレーヤーズセンタードを実践するため、**暴力, 暴力的行為, 暴言を根絶**します。

(1)インテグリティとは

②具体的な考え方

- **クリーンザバスケット**: 日常の環境を変える
→ 取り組み中
- **クリーン・ザ・ゲーム**: 試合中の取り組み
→ テクニカルファールの適用で、一定の抑止力となった

(1) インテグリティとは

③ 喫緊の目標

「CLEAN THA GAME」NO暴力暴言

- ・試合中のインテグリティによるテクニカルをゼロに

「RESPECT」NO暴言暴力

- ・コーチ, プレーヤー, 審判, 観客, 大会運営者等, 全ての人が互いをRESPECT

(2) 暴言暴力の根絶

① なぜインテグリティなのか

- バasketボールの価値の向上
- 選手は暴言暴力では絶対に成長しない。「愛のムチ」はない。
- 指導者を取り巻く人々の目，他の人がどう感じるか。

(2) 暴言暴力の根絶

② ゲーム中

- 試合中, コーチは立たない, 指示しないことを推奨する。
- 「暴言・暴力的行為」はテクニカルファウルの対象
- コーチは2つのテクニカルファウルで退場

(2) 暴言暴力の根絶

③ 練習中

- ・他の選手の目，保護者の目，その他の人たちの目
- ・子どもたちがバスケットボールを本当に楽しんでいるか？

(2) 暴言暴力の根絶

④ 違和感に対して修正する力(チーム力)

- 保護者は指導者にリスペクト精神を。
- 普段の練習が、楽しくないことへの疑問。
- 見て見ぬ振りは、子どもの成長に繋がらない。
- ダメなことはダメである。
- 保護者会でよりよいチームに向けた話し合い。

U12カテゴリー「指導行動の指針」

JBA U12カテゴリー部会

U12カテゴリーから「暴言・暴力」を根絶し、子どもたちが「楽しく」プレーできる環境をつくるため、指導者の皆さんには「指導行動の指針」として、つぎのことを意識して、指導に当たっていただきたいと思います。

<やってほしいこと>

- ・ はげます
- ・ 元気づける
- ・ 委ねる
- ・ 引きだす・導く
- ・ 判断させる
- ・ 主体性を育てる



<やってほしくないこと>



なにやってるんだ！
言った通りにやれ！

- ・ 怒る
- ・ 怒鳴りつける
- ・ 指示ばかりする
- ・ 威圧する
- ・ 判断させない
- ・ 支配する

みなさんの指導は
どうですか？

【確認書】

指導者は、試合中や日頃の練習において、JBA「指導行動の指針」を意識した立ち振る舞いに配慮し以下に掲げる言動を行わないことを宣言します。

- 1 プレーヤーに対する暴言
 - (1)人格、人権、存在を否定する言葉
 - (2)自尊心を傷つける、能力を不定する言葉
 - (3)身体的特徴をけなす言葉
 - (4)恐怖感を与える言葉
- 2 暴力的な振る舞い
 - (1)殴る・蹴るなどを連想させる行為
 - (2)プレーヤーと接近（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的、威圧的に指導する行為
 - (3)大声で高圧的、威圧的に指導する行為
 - (4)継続的、かつ、度を越えた大声、いわゆる怒鳴りつける行為で指導すること
 - (5)物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為
- 3 第三者が不快と感じる振る舞い
 - (1)不潔な服装、裸足やスリッパでの指導
 - (2)椅子に踏ん反り帰る態度

20 年 月 日

〇〇〇〇地区 チーム名

自署



7. 子ども理解と指導 親の支援



ミニバスを始めた理由

<保護者の希望>

- ・ 体力作り
- ・ 運動能力の向上
- ・ 習い事の一つ（子供の適性を見る）
- ・ チームスポーツをさせたい（友達作り、社会性の向上）
- ・ 家族がバスケをしていたので
- ・ 我が子には才能がある（我が子の活躍を応援したい）
- ・ 中学校の部活で活躍してほしい
- ・ 地域のスポーツはミニバスしかないから
- ・ 将来別のスポーツをする時の基礎作りのため

<子供の希望>

- ・ バスケが好きだから、楽しい
- ・ 友達と一緒にスポーツをやりたい

保護者の希望、期待は様々です

「子供ために」

子供のためには？ ⇒ **子供の成長**のために

子供の成長とは？ ⇒

- **身体の成長**、（体格、運動能力、抵抗力）
- **精神的な成長**（主に気持ちの面）
- **精神性**（道徳観、善悪の判断、意欲、理想・・・）
- **社会性**（他人を思いやる、自分の意見を言える、他人の意見を聞く・・・）
- **知性**（自分で考える力、工夫する力など）
- **理性**（感情のコントロールなど）

子供はみんな違います

< 子供の多様性の例 >

- ・ 成長の早い子、遅い子。身体的にも、精神的にも。
- ・ 得意分野（長所）と不得意（短所）なものも人それぞれ。長所であり短所でもあるのが個性。
- ・ 早く覚える子と、ゆっくり確実に身につける子。

◎自分が子供の頃はどんな子供でしたか？

- ★ 親の期待を押し付けていませんか？
- ★ 理想の子供像を我が子に期待していませんか？
- ★ 我が子を他の子供と比べていませんか？チームの子供はみんな我が子。
- ★ 指導者に過度な期待をしていませんか？

同じことができること・・・

子供の多様性を理解し その子を伸ばすとは？

< 具体的には >

- ・ 親は見守り、励まし、頑張って上手くできた事を褒める。
- ・ 過保護はダメ。子供が頑張ればできる事を自身でやらせる。
- ・ 間違った行動はしっかり注意、社会生活の基本。
- ・ 大人の手出しは最小限に、目配りが重要。
- ・ 小さなつまずきを乗り越えるのを見守る。 **親の我慢。**
- ・ 指導者は **焦らず、根気強い指導。**
- ・ 指導者は子供に公平にチャンスを与える。

★親も指導者も過度な期待は子供を萎縮させる可能性あり。

得意なことを見つけ、伸ばすことが大切！

8. 望ましい距離及び練習時間

何時に帰宅しているか

- 全国統一の基準はない。

しかし、都道府県教育委員会をはじめ、市町村、または、スポーツ少年団の指針やガイドラインで、小学生の一日の練習時間や週の練習時間を示している。

- **学習時間や睡眠時間等を考慮し、逆算すると遅くとも20時
ま
では帰宅する必要がある。**

高学年の場合(逆算)

登校	8:00
出宅	7:30
朝食	7:00
起床	6:00~6:30
消灯	22:00~22:30
食事・入浴・自宅学習	20:00~21:30
帰宅	19:30~20:00
練習	17:00~19:00(19:30)
学童保育・クラブ 放課後	~17:00
	(この時間に学習もあるが)

17:00からの指導者

チーム指導問題

練習時間 17:00~19:00(19:30)
指導者がつけるかという問題

指導者が来てから本格練習となると
18:00以降の時間帯が伸びる
それで、子どもの生活サイクルが乱れる
楽しい練習は、時間的な余裕にも関係があるもの

過度な練習が当たりまえではない。
大人の経験でスパルタ練習が上手くなる、親が期待をかける矛盾

9. 気持ちのよい
居心地のよい
自己肯定感を高める
チーム作りを目指して

誰のためのチームなのか

■ 主役は子供

バスケットボールは楽しい！

やってよかった。もっと追求したい！

■ プレーヤーズファースト

意欲の向上を

自己肯定感を持たせることが重要

仲間を思いやれる

コミュニケーション力を高める

楽しい・もっとがんばりたい・・・

- 否定されない環境 **根性論は不要**
- 肯定される環境 仲間、指導者、保護者から

ナイスプレー！ そのちょうし！
おいしい！ さあ、つぎ頑張ろう！ ナイスチャレンジ！
・・・今日の○○のプレーがよかったね。

子供たちが楽しくプレーできる環境を

はげます

ほめる

ほめちぎる

元気づける

委ねる

引き出す

話し合わせる

質問したくなる(ねえ、どうするの)

導く

判断させる

主体性を育てる

U12カテゴリー チーム運営について

- 1 困ったら 保護者間・指導者と検討できるチームに。
- 2 それでも困ったら地区の役員さんに相談しましょう。
- 3 解決が難しい場合は、県協会に相談しましょう。



FBA福島県バスケットボール協会 U12カテゴリー部会